

消息

菊地もね

名前を持つ日には

折り紙のように清潔な化粧を

加減がわからないから二回手を洗って

指紋が流れた指ですくうコンタクトレンズ

鏡をのぞいて虹彩にかざせば

顔の傷跡や歪みが立ちあがってくる

自転車ブレーキに思い知らされた不注意

回復を待つこともできない短気のしるしで

ここに息づいた私を感じる

過去と習慣が読めてしまう皮膚には

ぺかぺかの匂いがする塗りものとか

やけに特徴づけられた現在で折りあいをつけていく

つやも新しさもわずらわしいけど

いまだけを生きる顔のことも気に入っているから

夕方にはしぼみくずれるこの表情で

いつも名前をかまえている

走っていく批評ならどうでもよかった

かたちがあればつねに形容詞をあてがわれ

関係の近い遠いを噂される

私はどこへ連れて行かれるのか

いっそのこと

ひとつがいくつかの名前に化ける

かき氷のシロップにまぎれてしまえばいい

顔も呼ばれ方もその場かぎりの地点